

自然再生事業研修（令和4年度自然環境保全センター所内研修）に参加しました

令和4年11月1日（火）

外出が難しい方も多い社会状況ですが、パークレンジャーの活動情報を見てお楽しみください。

●自然環境保全センターの所内研修にパークレンジャーも参加させていただきました。堂平周辺で行われている自然再生事業の成果についての解説が主な内容です。今回はその中から登山道を歩きながら見る事の出来る「人工林の再生」について触れたいと思います。



植生保護柵の前で解説を聞く参加者

●塩水林道終点から登り始めるとしばらくスギ・ヒノキの人工林が続きます。この林は明治44年（1911年）に植栽された歴史のある人工林です。しばらく手入れがされていない時期があり、林内にはあまり光が届かない状態となっていました。平成12年（2000年）と13年（2001年）に間伐が行われ、明るい林になりました。



間伐直後の明るくなった林内（平成13年6月）

●下層植生が増加すると土壌保全に効果があります。シカなどの採食の影響を受けないように、間伐された年に植生保護柵も設置されました。20年前の写真と現在を比べると柵の中の草木の成長が見て取れます。見方を変えると20年たってもこの程度しか回復していないとも言えます。間伐の効果は10年位まではありますが、残った木の枝葉が徐々に成長して光が林内に差し込み難くなるそうです。



20年前の写真と今の植生保護柵内の植生を比較

●堂平の人工林内には植生保護柵が3つあります。柵の設置直後に撮影した下の2枚の写真を見比べると柵内の下層植生に差があります。下層植生の少ない柵内の方が広葉樹等の稚樹の個体数が多く、またその後の成長が良いことが確認できました。下層植生があることは土壌保全には有効ですが、稚樹の成長には少ない環境のほうが良いようです。人工林の再生の難しさを感じた研修でした。



植生保護柵設置直後の下層植生が多い柵（左）と少ない柵（右）